

登録解体基幹技能者講習考査試験問題

(試験時間 60 分)

[注意事項]

- (1) 受講番号は、受講票で確認してください。
- (2) 問題は全部で 25 問です。
- (3) 解答する際は、別紙のマークシート解答用紙を使用してください。
- (4) マークシート解答用紙のみ回収します。
- (5) この問題用紙は持ち帰っても構いません。

| 受 講 番 号 | | | | | | |
|---------|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | |

| | |
|--------|--------|
| 氏 名 | (フリガナ) |
| | (漢字) |

問題1 「新・担い手三法」における主な改正点に関する次の記述のうち、最も不適当なもののはどれか。

- ① 著しく短い工期の禁止
- ② 下請代金の適正化
- ③ 監理技術者の専任義務の強化
- ④ 主任技術者の配置義務の合理化

問題2 解体工事に関する現状や特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なもののはどれか。

- ① 解体工事での事故や災害の発生件数は、他の工事に比べて多い。
- ② 解体工事から発生する建設副産物は、木材、コンクリート、鋼材だけであるが、それぞれが大量に発生する。
- ③ 全国の空き家総数は、この20年間で約1.5倍に増加しており、今後は解体工事の需要増が見込まれている。
- ④ 災害時におけるがれき類の撤去などで、解体工事は重要な役割を果たしている。

問題3 登録解体基幹技能者に必要な資質に関する次の記述のうち、最も不適当なもののはどれか。

- ① 統率力がある
- ② 健康である
- ③ 実行の前に理屈を言い張る
- ④ 決断力を持って行動する

問題4 技能者の役割・能力と必要な教育・訓練に関する次の記述のうち、最も不適当なもののはどれか。

- ① レベル1の見習い工において、ツールボックスミーティングは安全を考慮する意味においても重要である。
- ② レベル2の技能者において、部下の統率及び指導を求められるので、意識は高く持つ訓練が必要である。
- ③ レベル3の職長において、他の専門工事業との連携が考えられるので、統率力・調整力の養成が必要である。
- ④ レベル4の上級職長において、技術者・現場代理人・会社などとの連絡・調整が求められる。

問題5 解体技能者の能力評価基準（国土交通大臣認定）に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① レベル2において、コンクリート造の工作物の解体等作業主任者資格は必須である。
- ② レベル4において、レベル2及び、レベル3の基準の「保有資格」を満たすこと。
- ③ レベル3において、一級土木施工管理技士及び一級建築施工管理技士は、解体工事施工技士と同等である。
- ④ レベル4において、安全優良職長厚生労働大臣顕彰は、該当する。

問題6 OJTに関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- ① 教科書を使用した学習を通じて、知識やスキルを身につけていく方法
- ② トレーニング機関などでのトレーニングを通じて、知識やスキルを身につけていく方法
- ③ 実務経験を通じて、実際の現場で知識やスキルを習得する方法
- ④ 実際の現場を観察することによって、知識やスキルを獲得する方法

問題7 解体工事の施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 解体工事は、一定の物差しが通用せず標準化が難しい。
- ② 解体工事は、熟練者が計画をしても想定外の壊れ方をする場合がある。
- ③ 解体工事は、緻密な施工計画を要求される場合もある。
- ④ 施工計画は、登録解体基幹技能者が単独で自身の経験と能力で作成する。

問題8 解体工事の施工管理の現場実務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 解体工事は、関係法令に基づいて適切に対応することが求められる。
- ② 施工管理の「品質管理」、「原価管理」、「工程管理」、「安全管理・環境管理」は、互いに干渉しあっている。
- ③ 登録解体基幹技能者は、「より早く」、「より良く」、「より安全に」を満足するような適切な施工管理を行うことが大切である。
- ④ 施工管理の実務では、工期を厳守することが最も重要である。

問題9 施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 資料や設計図が不足している場合、解体前の徹底した現地調査を実施することが極めて重要である。
- ② 施工計画の策定にあたっては、技術者だけでなく、企業の全体的な資源と能力を活用する必要がある。
- ③ 解体工事の施工計画を作成するには、専門技術と実践的な経験が不可欠である。
- ④ 施工計画の適正さが、企業の経済的成果に影響を及ぼす可能性は低い。

問題10 解体工事における工程表作成で留意すべき事項として、最も不適当なものはどれか。

- ① 各作業の日数（並列可能な作業と先行作業等）
- ② 元請会社の資機材の調達能力
- ③ 発注者の資金調達力
- ④ 廃棄物の処理施設の状況（処理能力、保管状況、受入可能時間、運搬時間等）

問題11 作業員（職人）の手配で考慮すべき内容として、最も不適当なものはどれか。

- ① 作業内容に適した手配を行うため、必要な有資格者を確保する。
- ② 工事を進め易くするため、確保できる作業員の人数は多ければ多いほど良い。
- ③ 事前に調達先を検討するため、特殊作業の協力会社の情報は早めに確認する。
- ④ 現場内の他の作業や、自社の他現場の情報から余剰の人員を確認する。

問題12 作業進捗から見た工程管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 常に変化する諸条件により工期の変更を余儀なくされることも多いが、対策は工期遅延が確定してからでよい。
- ② 作業の遅れが認められた場合は、その原因をつきとめ対策を実行することが必要である。
- ③ 予定した工期で工事を完了することが困難な場合、発注者、元請に報告、承認を受ける必要がある。
- ④ 工期消化に必要な作業員、資機材の確保が困難な場合、工期遅延を最小限に抑える調整を行う。

問題 13 原価発生の統制についての留意点に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 原価比率の高いものを優先して低減する。
- ② 低減しやすいものを優先して低減する。
- ③ 低減可能性の低いものから合理化する。
- ④ 損失費用を重点的に改善する。

問題 14 原価管理の実務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 日常的管理では、作業内容・施工量・就労状況・稼働重機・副産物の搬出量・経費等を作業日報に記録する。
- ② 実際原価と実行予算の差異の原因分析は、月間の管理で行う。
- ③ 日々の管理はその日の施工実績を把握するものであり、工事全体の流れを予測することはできない。
- ④ 週間・月間の単位で作業日報を集計し、原価管理表を作成して検討する。

問題 15 現場実務における原価管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 解体対象物の構造、立地、解体工法など、さまざまな条件によって工事原価が変動する。
- ② 一般的な物価資料に基づき、解体工事全般に渡る工事内訳の明確化とそれに伴う基準単価の策定を行う。
- ③ 発注者や元請は、解体工事に関する見積単価や内訳についての知識やアスベスト除去費、スクラップの単価、産業廃棄物処理費などの情報が少なく、適正な価格の判断が難しい。
- ④ 解体工事の原価の算出にあたっては、データの管理が最も重要となり、それが適正なコストの積算根拠となる。

問題 16 解体工事の品質管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 管理図とは、時間の経過による品質特性値の変化を追うもので、品質特性値が管理限界線内に収まるか管理する。
- ② 騒音、振動は、法令上の規制値内であれば工事費用がかさむので、低減のための対策は検討しなくてもよい。
- ③ 現場騒音を把握するため、これくらいの大きさだと何デシベル位とつかむ例では、電車の中は80デシベルである。
- ④ 環境事故の要因対策として、作業標準書とPDCAサイクルが効果的である。

問題 17 組織作りのための考え方であるサーバントリーダーシップに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 責任を明確にし、失敗から学ぶ環境を作る。
- ② チームのメンバーを支配し牽引していく。
- ③ 地位にかかわらず、組織への奉仕を目指す。
- ④ 信頼、機会、感化を利用し、信頼関係を築き、メンバーの自主性を尊重する。

問題 18 解体工事の品質管理の手法に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① ブレインストーミングを行うにあたり、若手は経験が浅いので、意見を採用しない。
- ② 特性要因図作成に当たり、登録解体基幹技能者がファシリテーターとなり、ブレインストーミングを行う。
- ③ フィッシュボーンチャートは、様々な要因と特性の把握を視覚的に把握することができる。
- ④ 解体工事において品質上問題になる特性と、それに関係する要因が因果関係にある。

問題 19 建設工事における労働災害に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 労働災害は、年々減少傾向にあるので特別な対策は特に不要である。
- ② 建設業全体で最も多い労働災害は、墜落・転落である。
- ③ 解体工事業の施工案件数は、増加傾向にあるため更なる安全性向上が求められる。
- ④ 解体工事では、崩壊・倒壊に分類される労働災害が多い点が特徴と言える。

問題 20 現場の安全確認に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 足場養生、仮設設備、機械、工具類等の日常点検、使用前点検を実施する。
- ② 作業通路は、現場の進行に伴い度々変わるため絶えず確認する必要がある。
- ③ 作業前に、事前に作成された手順書を確認することを忘れてはならない。
- ④ 現場で不安全な状況が確認されても、工程が遅延する可能性がある場合はそのまま作業しても構わない。

問題 21 作業員の健康管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 定期的な健康診断によって、作業員の体調管理を行う必要がある。
- ② 朝礼時に、作業員の顔色や作業時の動作等の確認で異変を感じた場合は、作業を休ませることが望ましい。
- ③ 作業員のメンタル不調やストレス管理は、特に対策を講じる必要はない。
- ④ 熱中症対策は、作業員と作業場一体になり取り組み、様々な工夫を講じる必要がある。

問題 22 解体工事における養生足場の資材に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 養生足場の資材は、使用前に折れ、曲がり、凹み、亀裂等の損傷の有無を検査し不適格なものは工事完了後に交換する。
- ② 作業中に資材や工具などが落下しないように、足場等に巾木を取り付けたり落下防止ネットを設置する。
- ③ 足場や養生は強風などによる影響を受けやすいため、台風などの災害発生が予測される場合は、足場養生等の資材点検には十分な注意が必要となる。
- ④ 事前に仮置き場所の確保、他作業の有無を確認し、必要な時に必要な数量を順に搬入する。

問題 23 解体用重機のアタッチメントに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① アタッチメントには、木造用、鉄筋コンクリート造用、鉄骨造用など多くの種類がある。
- ② 作業効率だけでなく、作業場所や近隣環境の条件も考慮し、適正なアタッチメントを選定することが重要である。
- ③ アタッチメントは、重量バランスを考慮せずに選定できる。
- ④ ベースマシンの油圧能力に余裕を持たせて、アタッチメントを選定するのが危険防止や騒音・振動の面からも望ましい。

問題 24 太陽光発電設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 太陽光パネルは、取り外し後にも感電の危険性がある。
- ② 太陽光パネルの取り外しは、手作業で行わなければならない。
- ③ 太陽光パネルの処分は、安定型埋立処分場となる。
- ④ 太陽光パネルの処分・リサイクルには、パネル含有成分表が必要となる。

問題 25 石綿と関連のない法令は、**次のうちどれか。**

- ① 労働安全衛生法
- ② 廃棄物処理法
- ③ 建設リサイクル法
- ④ 土壌汚染対策法